

令和2年度事業目標に対する主な取り組みと実績

一 事業部門の取り組み

1. 特別養護老人ホームしろみの取り組み

- (1)入居者が望む生活が実現できるよう嘱託医・看護・介護等、多職種チームで検討を加え協働し、“その人らしさ”を支えるケアの確立を図ります。
 - ・多職種と協働し、入居者の課題について一緒に考える機会が増えた。
 - ・栄養・調理職員が山なみ・あかねユニットの朝食・昼食に関わったことで、盛付けの助言や入居者の食事の様子を把握することができた。
 - ・ユニットミーティングなど、多職種との意見交換を積極的に行い、入居者の暮らしに寄り添うことができた。
- (2)新任職員や中堅・リーダー職員のスキルアップを図る育成並びにノーリフトケア(抱えない介護)に取り組みます。
 - ・各ユニット目標に添った計画を立案・実施し、その成果を個々に出すことができた。
 - ・スライディングボードの導入しノーリフトケアに取組み、身体に優しい介護につなげることができた。
- (3)各担当者が、入居者の安全・清潔な環境作りに責任を持ちます。
 - ・各担当者が時間を作り、居室等の安全点検に取組むことができた。
 - ・環境整備職員と協力し、居室の清潔な環境作りに取組むことができた。

(4)各ユニットの取り組み

【草原ユニット】

- ①入居者の“その人らしい”生活を送れるようなケアの統一と24時間シートを作成します。
 - ・“その人らしい”生活を送れるように、24時間シートの充実を図るため勉強会を行った。
 - ・24時間シートの更新が十分にできず、ケアの統一ができなかった。
- ②居室担当者を中心に家族と連携し、入居者の安心・清潔な環境を作ります。
 - ・環境整備職員と協力し、居室の清潔な環境を保つことができた。

【あかねユニット】

- ①毎月ミーティングで多職種と共に24時間シートの見直し・日々のケアについて話し合い、入居者の暮らしの継続を図ります。
 - ・入居者・ユニットの課題を検討し、ケアの向上に努めることができた。
- ②各担当者が責任感を持って居室の環境作りや入居者・家族と密なコミュニケーションを図り、安心して暮らせるユニットを作ります。
 - ・掃除チェック表を作成し、意識して居室の整理整頓をすることができた。

【山なみユニット】

- ①入居者の状況の把握及び共通理解をし、統一したケアを行います。
 - ・情報共有・日誌等を活用し、ケアの統一を図ることができた。
- ②居室担当職員が中心に、入居者の安全・清潔な環境作りに責任を持ちます。
 - ・担当職員が、居室の整理整頓や日用品の残数の確認等に気を配るようになった。

【こかげユニット】

- ①24時間シートの見直し、多職種が見ても分かるように整理します。
 - ・毎月ミーティングで話し合い、24時間シートの見直しを行うことができた。
- ②個々の介護技術を見直し、その人にあつたケアを提供します。
 - ・スライディングボードを活用し、身体に負担の少ないノーリフトケアに取り組むことができた。

【朝ぎりユニット】

- ①入居者が楽しみを持ち、一人ひとりが望む生活を送れるよう、行事や環境作りを通して“その人らしさ”を支える支援を行います。
 - ・年間の行事計画を作成し、毎月おやつ作り等を実施することができた。
- ②介護職としてのスキルアップを図り、業務に対する責任を持ち、それぞれが目標を立てて遂行します。
 - ・期限や約束を履行し、責任を持って業務を遂行することができた。

2. 短期入所生活介護しろみの取り組み

- (1)利用者のサービス担当者会議において、自立に向けた短期目標を提案し、短期入所介護計画書に位置づけます。
 - ・コロナ禍により、サービス担当者会議の出席が制限されたが、担当介護支援専門員や他事業所との連携により、利用者の情報を共有し、利用者の自立に向けた目標を提案した。日常生活の身近な役割を目標にすることにより、利用者の目標に対する意欲の向上や、職員がケアや機能訓練の具体性と目標も共有できた。

(2)利用者・家族の孤立感の解消や利用者の心身機能の維持回復、家族の介護負担軽減を図るために、個々に応じた24時間シートに基づいた個別ケアを提供します。

・利用者・家族からの日常生活情報を24時間シートに反映し、個別ケアの充実と「できること」を明確にすることで心身機能の維持回復を図ることができた。

(3)年間平均稼働率96%の達成に向けて取り組みます。

・コロナ禍により、十分な営業活動ができなかったため、空床情報をホームページに掲載、またファックスで空床情報を介護支援専門員、各事業所に送信し、利用者が円滑に利用できるように努めた。

3. デイサービスセンターしろみの取り組み

(1)利用者の自律した生活のために、個々に応じた通所介護計画に目標を設定し、達成できるよう支援いたします。

・利用者が主体的・意欲的に取り組める目標を設定し、目標達成できるように支援を行った。
目標を明確化したことでチームケアが向上した。

(2)利用者個々の思い、嗜好を尊重した活動を行い、社会からの孤立感を解消します。

・コロナ禍により、活動範囲に制限があったが、利用者からいただいた意見を日頃の活動に活かし、他者と交流する場面を増やした。

(3)平均利用者数21名(年間平均稼働率80%)を目標とし、利用者増に向けて取り組みます。

・コロナ禍でも、新規利用者がスムーズに利用できるように、家族、担当介護支援専門員と連携し利用増を図った。

4. デイサービスセンターしろみ ほほえみの取り組み

(1)利用者の認知症の症状(中核症状、行動心理症状)を把握し、安心して過ごせる時間を提供します。

・利用者の認知症状を職員間で情報共有し、行動心理症状の軽減に努めた。自宅でも症状が軽減できるような声掛け等を家族に提案した。

(2)利用者の持っている能力に応じて、個別機能訓練計画書を作成し、目標達成を目指します。

・利用者の能力に応じて、身近な目標を設定し、利用者が意欲的に機能訓練に取り組むように努めた。

(3)平均利用者数8名(年間平均稼働率68%)を目標とし、利用者増に向けて取り組みます。

・新規利用者がスムーズに利用できるように、担当介護支援専門員との綿密な連携に努め、現利用者には適切な利用回数を提案し、利用者・家族に利用増を勧めた。

5. ケアプランセンターしろみ

(1)アセスメント力の向上を図り、社会資源・地域の見守り等、インフォーマルなサービスを活用した自立支援に努めます。

・ZOOM(ズーム)等を活用した研修の受講や事業所内部での勉強会を開き、利用者の自立支援に努めた。

(2)諫早市高齢介護課や包括支援センター等と協力し、日常生活圏域(北中地区8町)自治会との連携を図ります。

・新型コロナウイルス感染防止のため、「語らんば」等の会合が見送られ、活発な連携をとることが難しかった。

(3)月平均利用者90名(年間稼働率85%)を目標とし、利用者増に向けて取り組みます。

・新型コロナウイルス感染症の影響の中、包括支援センター、病院等へ可能な限りの営業活動を行ったが、目標達成までに至らなかった。

6. グループホーム華の苑

(1)利用者の暮らしの継続のため、職員全員が24時間シートを作成できるようにします。

・ケア会議で24時間シート作成までの流れを再確認し、24時間シート部員や居室担当者が中心となって利用者のニーズを取り入れた24時間シートの作成・見直しを行うことができた。

(2)リスクマネジメントを強化し、利用者の安全・安心な生活支援を行います。

・ヒヤリハット事例の分析を定期的に行い、同様のヒヤリハットや事故の発生を防ぐことができた。

・利用者のADLの変化に合わせたケアの提供や見直しに不十分な部分があった。

(3)地域行事や外出を積極的に取り入れ、地域社会とのつながりを深めていきます。

・新型コロナウイルス感染防止のため、昨年度まで参加していた様々な地域行事が中止となった。

・苑内行事を定期的実施したことで、季節を感じ楽しんでもらうことができた。

7. 職種別の取り組み

(1) 看護職員

- ・他職種と協働し利用者の日常の心身状態を把握し、早期発見・早期治療に努めた。また、主治医と連携し短期間の入院治療とすることができた。
- ・看取りケアについては、7月の施設内研修並びに新任職員研修を行った。家族に対する状態報告を密にし、家族・職員で看取りカンファレンスを開催し、安心したケアを提供することができた。

(2) 機能訓練指導員

・施設部

多職種と協力し、入居者一人ひとりの興味・関心を把握し、サークル活動の実践に繋げることができた。

・居宅支援部

サービス利用中だけではなく、自宅でできる動作が増えるよう計画、実践した。また、利用者だけではなく家族の介護力も評価し、介護負担軽減につながるプログラム、動作指導を行うことができた。

(3) 歯科衛生士

- ・歯科医師と連携し、入居者の口腔内の状況を維持できるよう、介護職員へ口腔ケアに関するアドバイスを行うことができた。

(4) 栄養管理職員

- ・ユニットでの盛り付けに入ることで、量や食事形態に応じた野菜の切り方を検討する機会が増えた。
- ・残菜量の計測を全体量からユニットごとの把握に変更し、食事の提供等に活かすことができた。

(5) 運転士

- ・送迎前の車両点検や整備を毎日実施し、利用者の安全な送迎に努めた。また、感染防止のため、送迎後の車内清掃を行った。
- ・利用者に安心して乗車してもらえるよう、利用者の心身状態把握と情報共有に努めるとともに、利用者・家族に対して笑顔で挨拶を行うことができた。

(6) 環境整備職員

- ・特養の朝食・昼食後の食器洗い・シーツ交換・清掃を役割分担し、確実に行うことができた。
- ・四季を通して色とりどりの花を庭園へ植樹し、利用者や地域の方々に季節感を味わっていただくことができた。

(7) 事務職員

- ・新型コロナウイルスの感染防止のため、ご家族の面会制限や利用料支払い時の施設内立ち入り制限等施設窓口として適切な対応を求められたが、事業部門と連携して円滑に対応することができた。
- ・部署内の業務を把握し、幅広い業務を行えるようマニュアルの作成に取り組んだが完成に至らなかった。

8. 家族懇談会の実施

- ・新型コロナウイルス感染防止のため、実施しなかった。

9. 職員教育

- (1) 新任職員については、年間計画に基づき、採用時に法人理念・施設の方針等について研修を行った。
- (2) 令和3年4月採用新任職員から新卒者を対象としたビジネスマナー等の研修を3月に3日間行った。
- (3) 外部講師を招いての各種研修は、新型コロナウイルス感染防止のため実施しなかった。

二 地域との親睦・交流及び地域福祉の向上

地域包括支援部を立上げ2年目、日常生活圏域(北諫早中学校区)内の子どもから高齢者、障がいの方々と
の交流・活動、共生社会の実現に向けて、新型コロナウイルス感染症の影響の中、下記内容を実践した。

- (1) 令和3年1月4日より新規事業、障がい児通所事業(放課後等デイサービス)、事業所名「みらい学童しろみ」とし、小学生1年生から高校3年生の障がいを持った児童・生徒を対象に家族も含め、支援することができた。
- (2) 北諫早中学区内の出前(出張講座)の代替として、ホームページを活用し、機能訓練指導員(専門職)等が健康体操の動画配信を行った。
- (3) 地域住民に施設の開放・場所の提供として、台風災害の避難や城見町囲碁サークル活動、夏休み期間には放課後等デイサービスの子どもの活動支援を行った。
- (4) 近隣のみやまこども園、鎮西学院大学、就労支援施設等との交流・体験実習を可能な限りに受入れ、指導・助言技術、共生の必要性を再認識することができた。

三 介護報酬の動向

1. 特別養護老人ホームしろみ

- (1)介護報酬は前年度の約25,465万円から約25,721万円へ、約256万円増加した。また、稼働率は前年度の98.6%から98.5%へ減少した。
- (2)長期入院へと繋がらないよう入院先の病院や家族との連携強化に努め、短期間の入院で施設への再受入を行うことができた。
- (3)自立生活が困難な高齢者を積極的に受け入れたことにより、平均介護度は前年度の4.2と同じであった。

2. 短期入所生活介護しろみ

- (1)介護報酬は前年度の約9,254万円から約8,441万円へ、約813万円減少した。また、稼働率は前年度の90.8%から81.6%へ減少した。
- (2)コロナ禍により、積極的な営業活動ができなかった。他事業所に情報提供等を行ったが、目標達成に至らなかった。

3. デイサービスセンターしろみ

- (1)介護報酬は前年度の約5,817万円から約5,454万円へ、約353万円減少した。また、稼働率は前年度の82.8%から80.0%へ減少した。
- (2)コロナ禍により、積極的な営業活動ができなかった。他事業所に情報提供等を行ったが、目標達成に至らなかった。

4. デイサービスセンターしろみ ほほえみ

- (1)介護報酬は前年度の約2,563万円から約2,679万円へ、約116万円増加した。また、稼働率は前年度の56.9%から63.0%へ増加した。
- (2)新規利用者がスムーズに利用できるように、担当介護支援専門員との綿密な連携に努め、現利用者には適切な利用回数を提案し、利用者・家族に利用増を勧めた。

5. ケアプランセンターしろみ

- (1)介護報酬は前年度の約1,422万円から約1,398万円へ、約24万円減少した。また、稼働率は前年度の82.6%から79.0%へ減少した。
- (2)地域包括支援センター・他事業者との連携に努めたが、月平均利用者90名・目標稼働率85%を達成できなかった。

6. グループホーム華の苑

- (1)介護報酬は前年度の約3,912万円から約3,879万円へ約33万円減少した。また稼働率は前年度の98.5%から96.5%へ減少した。体調不良等による入院や新規利用者の獲得が遅れたことでの空床があり、稼働率が減少した。